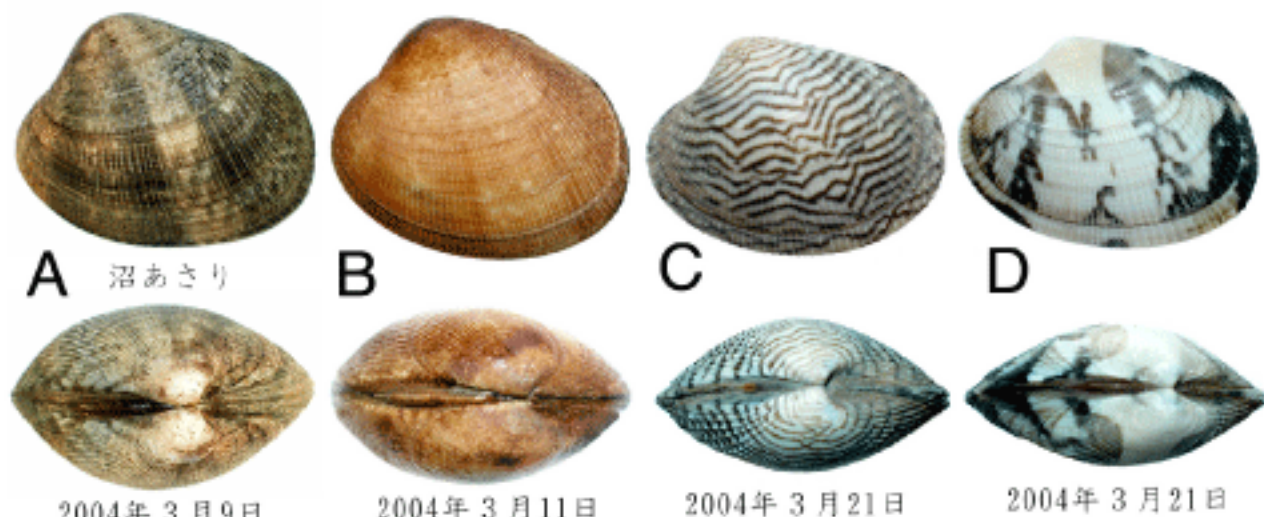


アサリは生息環境により色彩と形が異なります。その差は驚くばかりです。浦戸湾の沼あさりには覆砂で確実に減りました。覆砂で一時的に増えたのは沼あさりとは違います。



Aは衣ヶ島の一番岸よりの泥地，Bは須崎湾最奥部の泥地，CとDは衣ヶ島の砂地のアサリです。一見してAとB，CとDが似ているのが分かります。CとDは，明らかに覆砂の影響を反映しています。しかし，これも減りました。

今，アサリは全国的に危機的な状況にあります。日本で2番目に広い大分県の豊前海の干潟では，昭和60年の27500トンの漁獲が，平成15年にはわずか150トンです。原因はまだ解明されていませんが，乱獲に加え，流入河川と海岸線の開発による干潟の減少，地形の変化が考えられています。他県でも底質が固くなり，アサリの稚貝が定着不可能となった例が報告されています。佐賀県と熊本県では，トラクターで干潟を大規模に耕しています。干潟の耕耘は昔からあります。底質をかき混ぜることで，稚貝の定着を促すのです。内湾での覆砂は，底質が固くなるの促進するのみと私は考えます。

2005年2月2日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。